

efit+ for M3 Ver.1.1.4.0 アップデート概要

2016年7月
株式会社 ニコン・トリンプル

本書では、efit+ for M3 Ver.1.1.4.0 で追加、変更された機能の概要を説明します。

■ ソフトウェア構成表

◆efit+ for M3 Ver.1.1.4.0 の製品構成は下記の通りです。

製品名	コード	備考	改良
efit+M 測量基本ソフト	B-E1-M00	基本キットに含まれます	対辺測定改良
efit+M 測量観測	B-E1-M50	基本キットに含まれます	RoboticLite Ver.2.0.3.0対応
efit+M 測量計算	B-E1-M51		
efit+M 線形計算	B-E1-M52		
efit+M 縦横断観測	B-E1-M53		RoboticLite Ver.2.0.3.0対応/測線誘導改良
efit+M 平板観測	B-E1-M54		
efit+M 地籍観測	B-E1-M55		
efit+M Nikon通信OP	B-E1-M56		

■ RoboticLite Ver.2.0.3.0 対応

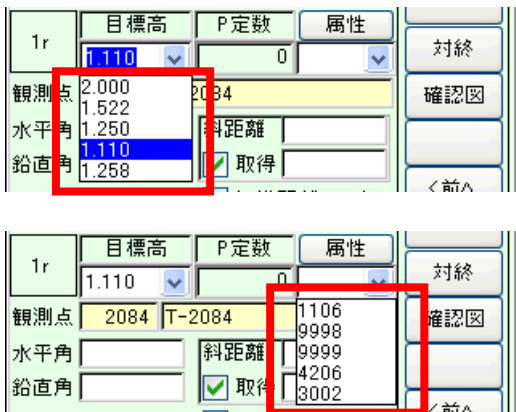
平面観測、測設、横断観測オプション

◆平面観測

目標高や属性などの履歴が RoboticLite でも選択できるようになりました。

属性リストデータが RoboticLite と同期できるようになりました。

確認図が RoboticLite で確認できるようになりました。



◆測設

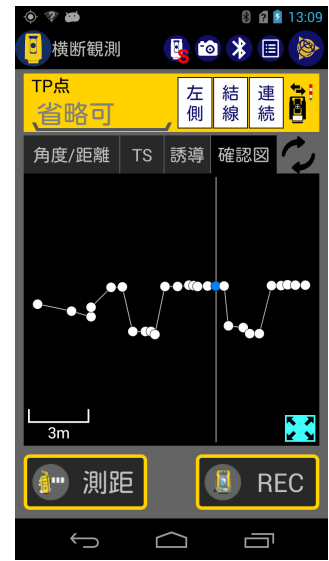
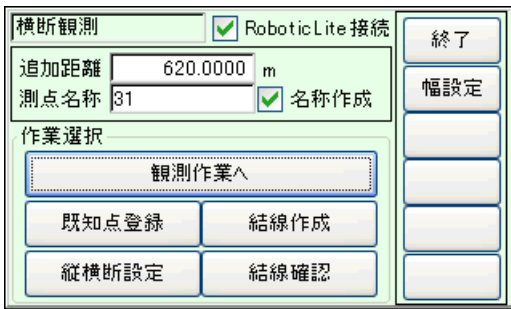
目標高の履歴が RoboticLite でも選択できるようになりました。

登録した測設点が RoboticLite でリスト表示や確認図表示ができて選択できるようになりました。



◆横断観測

新たに横断観測と RoboticLite が接続できるようになりました。
 目標高、杭長、点区分の入力やポールデータの入力が RoboticLite 側で入力できます。
 測線誘導の確認が RoboticLite 側で行えます。
 観測した断面形状の確認が RoboticLite 側で行えます。

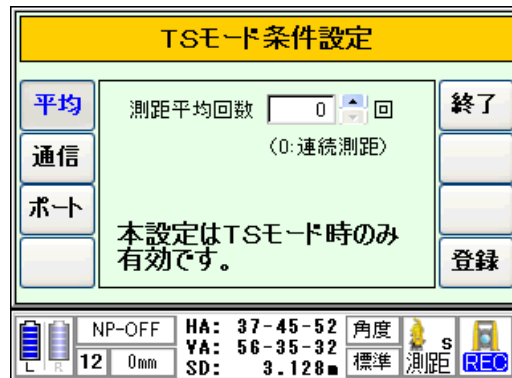
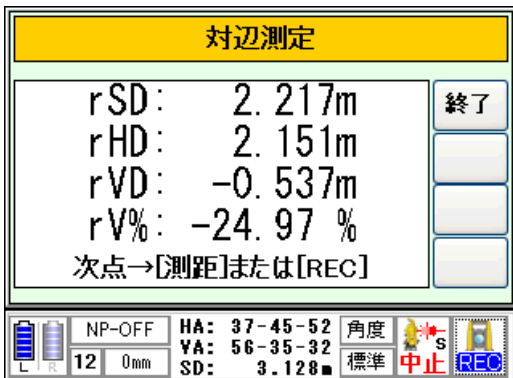


※RoboticLite Ver.2.0.3.0についての詳細は、
 RoboticLite Ver.2.0.3.0のアップデート概要を
 御覧ください。

■ 対辺測定に連続測距対応

TSモード、機能メニュー

◆対辺測定で測距平均回数を「0回」に設定しておくこと、2点目以降の観測で連続測距が行え、結果が連続で確認できます。
 測距ボタンを押す手間が省けます。



■ 測線誘導に接線基準モード追加

縦横断観測オプション

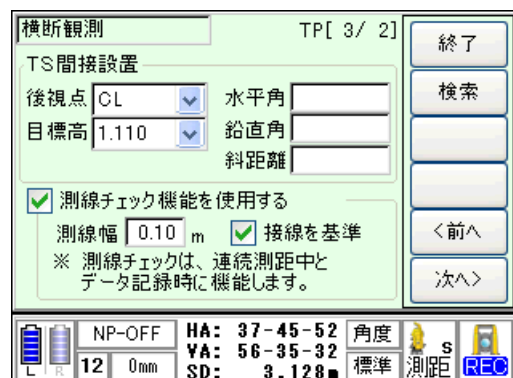
◆横断観測の測線誘導機能に「接線基準」モードを追加しました。
 「接線基準」モードは、縦断の接線方向を基準に観測することにより、縦断線に直角に横断測線を設置して測線誘導を行います。

※本モードを使用する時は、センターに器械を設置するか、センターを後視点にしてください。

【直接設置】



【間接設置】



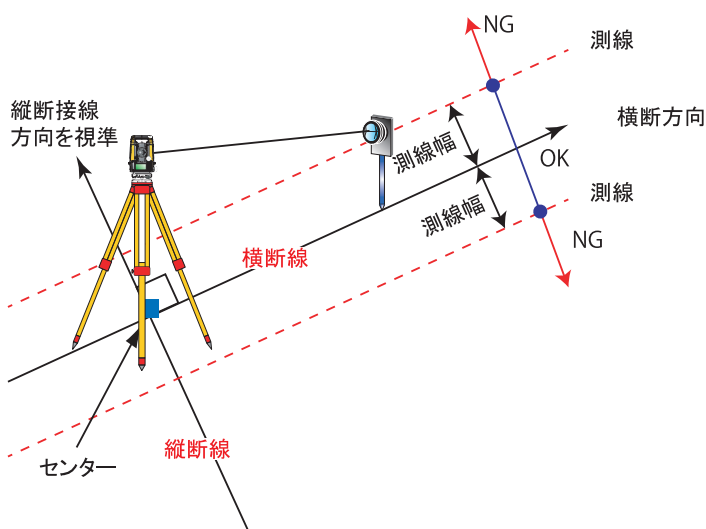
- ・「接線を基準」のチェックボックスにチェックを付けます。
- ・各設置方法のデータを入力もしくは観測後下の画面を表示します。



- ・「OK」を選択後、横断測線を設定します。

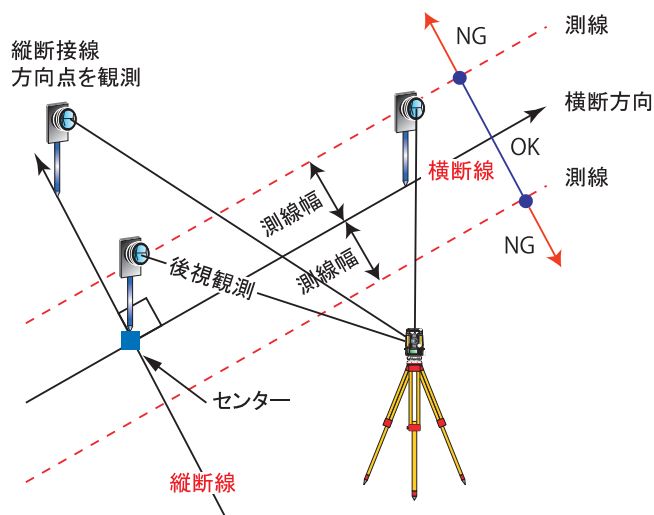
【直接設置】の場合、

センターに直接トータルステーションを設置して縦断接線方向を視準して、視準方向から直角に測線を設定します。



【間接設置】の場合、

センターを後視点として観測し直後に縦断接線点を観測して後視点から縦断接線点へ方向に対して直角に測線を設定します。



以上